

公立阿伎留医療センター
新改革プラン点検・評価書
(令和元年度)

令和3年11月

阿伎留病院企業団

公立阿伎留医療センター 新改革プランの点検・評価について

はじめに

公立病院は、地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療の確保を図る上で、極めて重要な役割を果たしている。しかしながら近年、医師不足等の厳しい環境が続き、人口減少や少子高齢化が急速に進展するなど、医療需要が大きく変化している。

こうしたことから総務省では、地域ごとに適切な医療供給体制の再構築に取り組むための公立病院新改革プランを策定し、経営改善に取り組むよう公立病院を運営する地方公共団体に対して要請した。これを受けて、公立阿伎留医療センターにおいては、平成29年度から令和2年度までの改革プラン策定し病院改革に取り組んでいる。新改革プランについては、実施状況を年1回以上点検・評価することとなっており、当評価委員会は評価対象の平成29～令和元年度の実施状況を点検・評価した。その3年間の総括をここに報告する。

点検・評価について

① 医療機能に係る数値目標の状況について

目標を達成している項目もあるが、急性期病院の役割を測る上で重要な指標である救急車搬送患者数・救急入院患者数や、自治体病院の役割の一つである周産期医療の指標となる分娩件数など、主要項目の目標が未達成の結果となった。

これは救急患者受入に結び付く診療科の医師が不足していることや、地域の民間医療機関において救急受入が増加したなどの理由が考えられるが、地域ニーズに適合した医師の確保や診療科偏在の解消など課題解決を図り、今後目標が達成されるよう期待する。

医師確保については、地域特性や今後の医療の方向性を踏まえ、需要が見込まれる総合内科医等の確保を目指すとともに、地域医療を支える医師の確保や教育を重視した研修・教育体制を整え、医学生にとって魅力ある環境の整備に努められたい。

② 経営指標に係る数値目標の状況について

長年、厳しい状況が続いていた病床稼働率についても、主要診療科の医師の確保が

進んだことで入院患者数が増加した。特に令和元年度については病床利用率も 75.4% を超え、診療単価も診療の充実に伴い増加するなど、各収支比率も改善傾向が見え、経常収支が 4 年連続で黒字を達成したことは評価することができる。

今後は医師の働き方改革など医療従事者の労働環境の改善を進めつつ、今まで以上に収入の確保と経費の節減など収支バランスの取れた病院経営を期待する。

結び

今、医療を取り巻く環境は、世界的規模で甚大な被害をもたらした新型コロナウイルスが蔓延する未曾有の状況であり、国が総力を挙げて感染防止に努めている。今後数年はウイルス感染症との戦いが続くと予想され、第 6 波に備えた感染防止対策の整備が急がれると共に、ポスト・コロナを見据え、コロナ対応と一般診療との両立が課題になると考えられる。

総務省が令和 2 年度に示す予定であった「改正・新公立病院改革ガイドライン」は、コロナの影響により延期となっているが、公立阿伎留医療センターにおいては、新たに「感染症への対応」の視点に加え、新改革プランで実施した取組みを高いレベルで継続するなど、地域住民に良質な医療を提供するとともに、引き続き健全経営に努められたい。

令和 3 年 1 月 5 日

公立阿伎留医療センター新改革プラン評価委員会
委員長 下 村 智

○公立阿伎留医療センター新改革プラン評価委員会委員

委員長 下 村 智（あきる野市医師会会長）

副委員長 大 串 國 廣（公立阿伎留医療センターを育てる会 事務局長）

委員 尾 崎 喜 己（あきる野市副市長）

木 崎 孝 二（日の出町副町長）

八田野 芳 孝（檜原村副村長）

荒 川 泰 行（公立阿伎留医療センター院長）

【資料】

1 新改革プランの点検・評価

(1) 医療機能等指標に係る数値目標の状況

① 医療機能・医療品質に係る指標

<評価の基準>

A 目標を上回ったもの

B 概ね目標どおりだったもの

C 目標を下回ったもの

区分	29年度	30年度	令和元年度			自己 評価
	実績	実績	計画	実績	達成率	
救急車搬送患者数（人）	1,774	1,730	2,097	1,734	82.7%	C
救急入院患者数（人）	1,290	1,342	1,743	1,327	76.1%	C
手術件数（件）	1,405	1,637	1,354	1,859	137.3%	A
臨床研修医の受入数（人）	2	3	4	5	125.0%	A
医師派遣等日数（日）※1	0	0	83	0	0.0%	C
紹介率（%）	34.8	36.2	38.2	44.8	117.3%	A
逆紹介率（%）	20.3	21.4	27.3	25.9	94.9%	C
在宅復帰率（%）	94.4	96.9	92.5	96.3	104.1%	A
リハビリ件数（件）	104,793	102,509	110,727	109,402	98.8%	B
分娩件数（件）	176	150	240	156	65.0%	C
常勤医師数（人）※2	45	44	51	50	98.0%	B
人間ドック件数（件）	288	275	264	333	126.1%	A
クリニカルパス件数（件）	71	101	66	113	171.2%	A

※1 構成市町村への診療支援として実施している医師の派遣について、派遣日数を計上した。

※2 常勤医師数は、年間延常勤医師数÷12で積算した。

② 患者サービスに係る指標

区分	29年度	30年度	令和元年度			自己 評価
	実績	実績	計画	実績	達成率	
患者の接遇満足度 (%)	86	90	93	87	93.5%	C
外来患者待ち時間 (分)	55	55	60	58	96.7%	B
後発医薬品採用割合 (%) ※	90.6	92.5	90.0	96.3	107.0%	A
健康出前講座の開催件数 (件)	11	11	19	9	47.7%	C

※ 先発品（後発品あり）の使用量に対する後発品の使用量を、採用割合として計上した。

(2) 経営指標に係る数値目標

① 収支改善に係るもの

<評価の基準>

A 目標を上回ったもの

B 概ね目標どおりだったもの

C 目標を下回ったもの

区分	29年度	30年度	令和元年度			自己 評価
	実績	実績	計画	実績	達成率	
医業収支比率 (%)	85.3	85.5	91.1	87.4	95.9%	B
経常収支比率 (%)	100.4	100.0	104.1	100.2	96.3%	B
総収支比率 (%)	100.7	98.3	103.3	98.9	95.7%	B

② 経費削減に係るもの

区分	29年度	30年度	令和元年度			自己 評価
	実績	実績	計画	実績	達成率	
給与費比率 (%) ※	63.3	62.3	57.8	61.2	94.1%	C
委託費比率 (%)	11.9	11.9	10.2	12.8	74.5%	C

※ 三多摩地区の類似公立病院における令和元年度給与費比率平均値…62.8%

③ 収入確保に係るもの

区分	29年度	30年度	令和元年度			自己 評価
	実績	実績	計画	実績	達成率	
1日平均新入院患者数(人)	12.7	13.6	14.7	14.3	97.3%	B
1日平均延入院患者数(人)	215.5	212.9	248.0	229.9	92.7%	C
1日平均延外来患者数(人)	650.3	638.3	689.7	614.5	89.1%	C
病床稼働率(%)	69.5	69.8	80.0	75.4	94.3%	C
1人当たり1日平均入院収益(円)	45,249	47,299	45,150	46,911	103.9%	A
1人当たり1日平均外来収益(円)	10,489	11,263	10,781	12,783	118.6%	A
平均在院日数(日)※	12.5	12.1	12.8	12.2	104.7%	A

※平均在院日数は急性期病棟のみの実績

※三多摩地区の類似公立病院における令和元年度平均値

1人当たり1日平均入院収益…50,189円、1人当たり1日平均外来収益…11,987円

2 収支の状況

(単位：百万円、%)

区分	年度	29年度	30年度	令和元年度		
		実績	実績	計画A	実績B	B-A
病院事業収益		7,034	7,216	7,560	7,609	49
医業収益		5,619	5,822	6,254	6,249	▲5
入院収益		3,559	3,675	4,098	3,948	▲150
総病床数(床)		310	305	310	305	▲5
総患者数/日(人)		215.5	212.9	248.0	229.9	▲18.1
入院診療単価(円)		45,249	47,299	45,150	46,911	1,761
総病床利用率(%)		69.5	69.8	80.0	75.4	▲4.6
外来収益		1,671	1,754	1,807	1,909	102
その他医業収益		177	183	169	178	9
他会計負担金		212	210	180	214	34
医業外収益		1,390	1,370	1,285	1,328	43

他会計補助金	130	130	118	130	12
他会計負担金	381	362	382	373	▲ 9
補助金	389	389	389	387	▲ 2
長期前受金戻入	23	23	26	62	36
資本費繰入収益	416	417	328	336	8
その他医業外収益	51	49	42	40	▲ 2
特別利益	25	24	21	32	11

区分	年度	29年度	30年度	令和元年度		
		実績	実績	計画A	実績B	B-A
病院事業費用		6,988	7,343	7,318	7,690	372
議会費用		1	1	1	1	0
医業費用		6,587	6,809	6,863	7,146	283
給与費		3,557	3,661	3,616	3,866	250
材料費		1,163	1,244	1,313	1,266	▲ 47
材料費比率 (%)		20.7	21.4	21.0	20.3	▲ 0.7
経費		1,142	1,170	1,149	1,279	130
委託費		670	692	638	797	159
委託費比率 (%)		11.9	11.9	10.2	12.8	2.6
その他		472	478	511	482	▲ 29
減価償却費		697	717	772	712	▲ 60
資産減耗費		14	3	2	9	7
研究研修費		14	14	11	14	3
医業外費用		394	380	380	412	32
支払利息		193	183	175	173	▲ 2
雑損失		200	195	204	238	34
その他		1	2	1	1	0
特別損失		6	153	74	131	57

(単位：百万円、%)

区分	年度	29年度	30年度	令和元年度		
		実績	実績	計画A	実績B	B - A
医業損益		▲ 969	▲ 988	▲ 610	▲ 898	▲ 288
経常損益		27	2	295	18	▲ 277
純損益		46	▲ 127	242	▲ 81	▲ 323
医業収支比率 (%)		85.3	85.5	91.1	87.4	▲ 3.7
経常収支比率 (%)		100.4	100.0	104.1	100.2	▲ 3.9
総収支比率 (%)		100.7	98.3	103.3	98.9	▲ 4.4
資金増加額		35	▲ 25	636	18	▲ 618
資金期首残高		185	220	366	195	▲ 171
資金期末残高		220	195	1,002	213	▲ 789
一時借入金残高※		430	420	0	320	320

※平成27年度末時点における一時借入金残高…6.0億円

